

# 洗心荘通信

H18年12月18日

洗心荘広報委員会

日頃は洗心荘の運営に対し、利用者のご家族の皆様、ボランティアの皆様、地域の皆様及び関係行政機関の皆様にご多大なるご協力を賜り誠にありがとうございます。平成17年4月にここ長地出早に移転し、1年8ヶ月が経過しようとしています。その間、度重なる制度改正、何百年ぶりと謂われる豪雨による被災等々があり、皆様にはご迷惑とご心配をおかけしたのではないかと反省をしております。これらを踏まえながら今後もご利用者には安心して生活していただける、また、ご家族の皆様には安心して介護を任せられる、環境とサービスの提供を探求し、施設のレベルアップを図ってゆきたいと考えておりますので、引き続きご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

所長 上條 徹



1丁目では今年の夏は、焼き肉や手作りカレーを作りみんなで食べました。野菜の皮むきから切る作業まで自分達でやりました。料理をしない期間があったものの、さすが昔やっていただけあってみなさん上手！自分達で作った料理はいつもと違っておいしかったですね。おいしい夏を満喫しました。秋にはキノコご飯や紅葉狩りを計画しています。季節の物を食べ寒い冬を元気に乗り切りましょう。

9月には敬老会が行われました。2丁目には103歳～61歳の方々が入所されています。今年度は、104歳が1名、米寿3名いらっしゃいました。当日は、たくさんのご家族や、小松稔長野県議がお祝いにつけてくださり、職員の催しは、日々の忙しい時間をぬって練習をした“お祭りマンボ”を発表しました。途中大きな獅子舞が登場し、利用者は大喜びでした。お昼には特製オードブルが出て心もお腹もいっぱい満喫することが出来ました。



3丁目では、夏の締めくくりにかき氷会をしました。シロップは、イチゴ、ラムネ、宇治金時にあんこと白玉、練乳を準備しました。一番人気は、宇治金時でした。かき氷機を回したり、盛り付けやトッピングは職員が行いましたが、利用者の方々と一緒に食べながら楽しい会話をしたりして楽しい時間を過ごしました。お代わりをされる方がいらっしゃり、笑顔の絶えないかき氷会となりました☆

## インフルエンザの予防について



萩元主任

残念ながらインフルエンザを確実に治療・予防する方法はありません。

最も有効な予防手段はワクチン接種ですが、流行する型を予測してその型に合ったワクチンを接種する必要があるため、効果は70～80%程度とされています。

- うがいと手洗いの励行
  - 人ごみの中に出た時はこまめにうがいを
  - 深酒やタバコはなるべく控える
  - 食事の前の手洗いを励行する
  - きちんと3食とり栄養をつける
  - 免疫力を高めるために睡眠を十分とる
- 等を心がけ、更にインフルエンザウイルスの弱点である、高温(20～22℃)、多湿(50～60%)な環境を作ることも予防につながります。(看護・介護課 看護ユニット)



※ 洗心荘では11月下旬～12月上旬にかけて利用者のほとんどの方のインフルエンザワクチンの予防接種を行いました。



今井係長

今年の3月より「ウエルハートおかや」から来ました。今井祐輔です。ウエルハートでは主に、デイサービス、ケアマネの仕事を行っていました。実は洗心荘では8年前に少し勤めており、戻れることには期待と不安の気持ちで来ました。また、新型特養になり、ハードもソフトも新しい環境の中、早いもので半年が経ちます。今後もユニットケアの確立を目指し、個別ケアが高いレベルで提供できるよう邁進していくことと、地域に不可欠な施設になるよう頑張っていきたいと思っております。今後とも前任者同様よろしくお願い申し上げます。(看護・介護課)



山田主任

「早いもので・・・。」が挨拶がわりになる時期になりました。今年もご家族、ボランティア、小学校等児童及び先生、介護関連事業者、行政機関、福祉機器業者、施設見学に来られた方等々たくさんの方とお会いし、たくさんの事を教えていただき、学ばせていただいた『感謝』の一年でした。それらを忘れることなく、ご利用者様やご家族様の笑顔に繋がるよう業務に努めていきたいと思います。(生活相談室)



中山主任

「一日一笑」笑顔が絶えない生活でありたいと思いながら施設移転の際にあげた目標の一つです。笑顔(\*^\_^\*)には人を和ませ、安心感に繋がれる力があります。笑いあえる関係とは簡単にできるものではなく築きあげていくものです。その関係の中から信頼関係も生まれると思えます。一日一笑し“ホット”できる時間を一緒に過ごし、言葉掛けだけでも安心して頂けるようなケアを目標にし、その人がその人らしい生活が送れるようサポートできればと思います。(介護ユニット)



小泉主任

今年3月、ウエルハートおかやより異動となり7年ぶりに洗心荘に戻って参りました。懐かしさを感じつつも環境など大きく変わり、不安、戸惑いがありました。しかしこの新しい洗心荘を立ち上げてきた職員の方々に接していく中で、逞しさと、優しさを感じ、とても刺激を受けました。この刺激をバネに、気持ちを新たに、ご利用者の皆様の笑顔を増やしていけるよう頑張っていきたいと思えます。「オッチョコチョイ」ではありませんがよろしくお願い致します。(介護ユニット)



### 妻入所一年を過ぎて

内川 浅雄

10年前、彼女が59歳。1月13日夕方の事であった。会社から電話があり、頭痛が激しく座り込んでしまった風邪かもしれないから、迎えに来てほしいと言ってきた。当時、私は定年になりこれからの人生を何かに過ごそうか、夫婦の時間も大切にしたいと、はりきっていた。

何事だろうと、かけつけてみると、異常な痛さで苦しんでおり、近くの病院で診察した所『くも膜下出血』であると診断され、病院へ搬送、手術を待った。状況は悪く仮死状態になってしまっていた。もっと早い対応をしていれば、こんな障害が残らなかったと思う。それから私の介護が始まった。おむつ交換、食事、入浴等一人でやってきた。入所が決定した時、今まで見てきたから、最後まで私がやろうと思った。親類、兄弟等と回り了解を得て入所させる事にした。洗心荘は、全室個室である。また、排泄片付け、食事介助等に加え、各種イベント等あり、楽しく生活できる所である。介護に対する教育を受けた若い職員には頭が下がる。お金だけ出し面倒を見てもらえば良いと思っている人が大勢いるが本人、職員、家族が手をたずさえ、協力しあいながら援助しなければならないと思っている。

## フロア担当者から一言



近藤副主任

9月から新生1丁目が誕生し、個々の職員の「こんなユニットにしたい」という思いを形にするべく動き始めています。

皆さんが1日でも長く自立した生活が送れるよう、現在職員と利用者が一緒に楽しみながら日々訓練に励んでいます。氷川きよしの大ファンのAさんには目標地点にポスターを貼り、励みにしてもらったり・・・

1丁目の皆さんが益々お元気で、そしてもっと素敵な笑顔を沢山引き出せるように職員一同頑張っています。



上野副主任

この度2丁目フロアリーダーになりました上野です。

ユニットケアが始まり1年が経過しまだまだ“これが洗心荘のユニットケアです”と呼ぶには遠いかなと感じています。

2丁目に移り新しい環境・新しい職員となった今、自分に欠けていたものを再確認し、“2丁目らしい”ユニットケアができるよう職員の協力を得ながら精一杯頑張りたいと思います。



北原副主任

3丁目フロアリーダーだなんて、とんでもない事です！ど～うしょ～！私にできる理由ありませんよ！でも、始まりました。皆さんより少し長いこと生きてきました。こんな私にできることがあったら教えてください。使ってください。努力する気力だけはあります。何かわからないけど3丁目は違うね。”行ってみようよ！行きたいな！そんな職場に、フロアにしたいと思っています。皆さん一緒に、楽しく働きましょう！よろしくお願い致します。

### ある日の出来事・・・



N職員がSさんの前で、「わたしもう50歳・・・(\*\_\*)」とつぶやいたら、「なにいつてるの。まだ、半分しかじゃないの・・・」と言われたみたいなんです。Nさんはそうか！まだ半分！頑張らなきゃ。と元気を頂いたようです。★感謝の気持ちでいっぱい。嬉しかったとのことでした。